

経営者を守る「ステージ0」早期発見の威力、BCP対策にも 医療法人社団NIDC

経営陣の健康リスクは、事業継続を揺るがす経営課題だ。このリスクを最小化する手段として、がんを「ステージ0」で捉える超早期発見が、事業継続計画(BCP)対策として注目されている。存在感を高めているのが会員制医療サービス「セントラルメディカルクラブ(CMC)」だ。

厚生労働省データが示す生存率向上と「ステージ0」の劇的な威力

厚生労働省の「全国がん登録」データによれば、全がんの5年生存率は6割を超える。部位別では前立腺がんや乳がんが80～90%台に達し、早期発見・治療により長期生存や社会復帰が期待できる。一方で、膵臓がんや肺がんなど予後が厳しいがんもあり部位差は大きい。

「ステージ0」とは、がん細胞が粘膜や上皮内にとどまり、浸潤や転移が見られない極めて初期の段階のこと。画像診断技術の進歩により超早期発見に役立つ可能性がある。組織の形態変化を高精度に捉えるMRI検査と、細胞の代謝状態を可視化するPET検査を組み合わせ、自覚症状のない微小ながん病変を発見できる。早期発見・早期治療により良好な治療成績が期待される。

また、認知症の早期発見も可能だ。PET検査、MRI検査を活用し、自覚症状が出ない超早期段階や軽度認知障害の段階で認知症の兆候を探し出す。発症や進行の抑制が期待される場合がある。

コンシェルジュドクターが実現する新しい予防医療

医療法人社団NIDCの佐藤俊彦理事長は、日本におけるPET検査の黎明期である2003年、栃木県宇都宮市で同サービスを始めた。当初は「動物病院のPET(ペット)か」と誤解されるほど認知度が低かったものの、地道な啓蒙活動で会員数を伸ばし、2023年3月には「セントラルメディカルクラブ世田谷」を開設。CMC世田谷だけで1,000人を超えている。

CMC世田谷では、多忙な中小企業経営者や士業らに配慮した「半



会員専用ラウンジ



セントラルメディカルクラブ世田谷の外観

日で完結する検査体制」を構築。過去の経過を時系列で網羅するデータ管理システムを導入。最新の医療機器を用いた精度の高い検査に加え、がんや認知症の発症を防ぎ免疫機能を低下しないようにする「0次予防プログラム」を一貫して提供する。これこそが、佐藤理事長が提供する「コンシェルジュドクター」の真髄だ。患者専属の主治医として包括的に健康管理を最適化する米国の仕組みに着目したもので、近年の「健康経営」や「BCP」の高度なニーズと合致している。

内閣府「ムーンショット目標」が後押しする「0次予防」の未来へ

これを後押ししているのが、内閣府が推進するムーンショット目標7だ。2040年までに主要な疾患を予防・克服し、100歳まで健康不安なく人生を楽しむための持続可能な医療・介護システムの実現を目指す国家プロジェクトである。

現在、地方都市を中心に「医療崩壊」が深刻化し、最先端機器の導入が進みにくい病院も多い。高度な検査環境に恵まれない地方の経営者がCMC世田谷を訪れ、会員となっている事例もある。佐藤理事長は「最先端の画像診断とコンシェルジュドクターの伴走で経営者を支えたい」と話している。



セントラルメディカルクラブ理事長 佐藤俊彦